

熊本県産業技術センターの概要

アクセス

所在地

〒862-0901

熊本県熊本市東区3丁目11番地38号

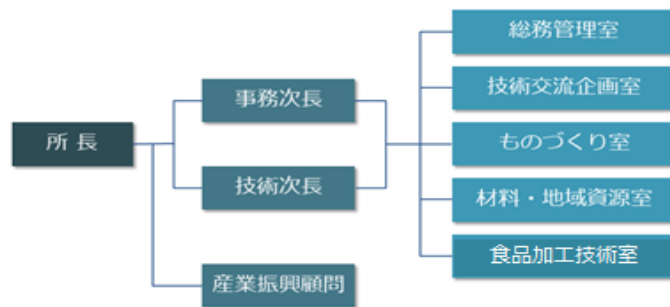
TEL: 096-368-2101

FAX: 096-369-1938

【対応可能分野】



【支援メニュー】



職員数=21名(兼務職員を除く) ※平成21年4月1日現在

図2 産業技術センター組織図

各室は、主に以下の業務を担当しています。

【総務管理室】

総務・経理及び適正計量に関する検定・指導業務

【技術交流企画室】

企画調整・公報、デザイン技術・情報技術の支援

【ものづくり室】

機械金属技術、電気電子技術の支援

【材料・地域資源室】

有機・無機化学技術の支援、地域資源利用技術の支援

【食品加工技術室】

食品加工技術、微生物利用技術、生物資源開発の支援

各室の連携により、共同研究、技術相談、依頼試験等を通じて地域企業の新技術・新製品の研究開発から事業化までを支援するとともに日々の技術的なお困りごと解決のお手伝いをしています。

【研究開発内容・分野】

最近の技術支援の特色

近年、人手不足に苦しむ中小企業が増加の一途をたどっています。そこで当センターでは、「地域に、より貢献する産業技術センターへ～未来を見据えた技術創造と人材育成～」をスローガンに、県民の幸福と豊かさを実現するために、産業の活性化と未来社会の課題解決を両立させる技術開発や企業支援を目指しています。いわゆるサステナブルな発展を目指した活動を開始しました。それは、世界で生まれた次世代技術を地域に最適化して取り込むことを実現するイノベーションの拠点として機能することです。

図3に関連した人材育成事業の取り組みを示します。これは、県内中小企業における中核技術者を対象として、「デジタル実装技術」に関する技術研修の実施、「デジタル化による生産性向上」に関する現場実践と定着の支援(例えば、製品開発・設計・解析、試作・計測・検証、電気回路設計・組み込みシステム、等々生産性向上に貢献する関連技術など)に取り組む活動です。



図 デジタルものづくり中核人材育成事業概要

次に、図4に当センターにおけるIoT普及促進の取り組みを示します。全所的なプロジェクトチームを編成しターゲット企業を絞り込み集中支援する活動を行っています。示した2例のように、生産性革命の実現に向けた取り組みにさらに力を入れていく予定にしています。



図4 IoTの普及促進への取り組み

①非破壊検査システム

(型 式) OmniScan MX

(製造元) オリンパス(株)

(設置年月) H31.2

(用 途) 金属、セラミック、プラスチック(FRP含む)などの工業材料からなる部品中の欠陥を、音波または電磁波を利用して非破壊で検出、または測定します。



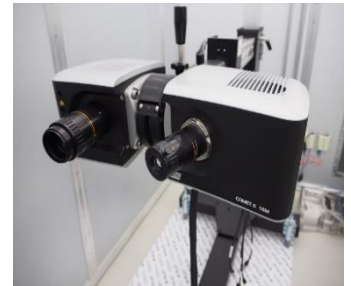
②非接触三次元デジタイザ

(型 式) COMET6-16M

(製造元) 東京貿易テクノシステム(株)

(設置年月) H30.3

(用 途) 測定物の表面形状を高密度な三次元点群データとして出力する装置です。測定点群データとCADデータの比較検査や、測定点群データを基にしたCADデータ作成に用います。



③ロックウェル硬さ試験機

(型 式) LC-200RB

(製造元) (株)フューチャアテック

(設置年月) H30.3

(用 途) 金属材料、プラスチック材料等の硬さ測定に用いる装置である。試料の表面状態の影響を受けにくく、迅速に測定できるという特徴を有しています。



④万能塑性加工試験機

(型 式) SDE-1522-SF

(製造元) (株)アマダマシンツール

(設置年月) H30.3

(用 途) 金型を用いた各種材料の圧縮加工試験に用います。力・変位・温度など様々な加工データの収集が可能であり、部品の生産性・品質向上の最適化、ならびに高精度・複雑形状など競争力の高い新製品開発に向けた試作に用います。



⑤微細放電加工機

(型 式) DE70-5T

(製造元) 三協エンジニアリング(株)

(設置年月) H30.2

(用 途) 硬化処理が施された成形用金型や刃物・工具など、切削が困難である金属材料を放電によって部分的に溶解除去する装置で、微細な形状の付与や穿孔の他、細線ワイヤーを用いた切断が可能です。



⑥多軸複合加工支援システム

(型 式) ROBODRILL α-D14LiB5 ADV

(製造元) ファナック(株)

(設置年月) H30.3

(用 途) 同時5軸加工機、机上計測装置、CAMを組合わせた複合的な加工システムです。加工時間の短縮、加工面品位・加工精度の向上、切削工具の長寿命化等に向けた試作加工に用います。

